

《第71回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書》

	書名／作者名	あらすじ
小学校低学年	『ライオンのくにのネズミ』 さかとく み雪 // 作	ライオンのくにに引っ越したネズミの家族。使う言葉も習慣も体の大きさも違う彼らは、お互いにわかりあうことができるのか？
	『ぼくのねこポー』 岩瀬 成子 // 作	学校からの帰り道、塀の上にいたねこを家に連れて帰った。ぼくの家でねこになってくれたらいいな、と思っていたけれど、仲良くなった転校生の森くんから、引っ越した日にねこが逃げ出したことを聞いて…。
	『ともだち』 リンダ・サラ // 作 ベンジー・デイヴィス // 絵 しらい すみこ // 訳	ぼくとエトは、大のなかよし。丘の上で段ボール箱の中に入って遊ぶ。ある日、知らない男の子が仲間に入れてほしいとやってきた。エトは「いいよ!」と言ったけど…。新しい友達が現れ、揺れる「ぼく」の気持ちを描いた物語。
	『ワレワレはアマガエル』 松橋 利光 // 文・写真	アマガエルの暮らしを知っている？ ギャツギャツという大きな声のひみつや、産卵からおたまじゃくしになり、冬眠するまでを、アマガエルが楽しく自己紹介する写真絵本。写真について詳しく解説した「かえるメモ」も掲載。
小学校中学年	『ふみきりペンギン』 おくはら ゆめ // 作・絵	ゆうとはペンギンの話を、るりは白いへびの噂を、ななこは鏡のライオンを、そうすけはフクロウの占いを、聞いたり、見たり、感じたり…。「ふつうとは？」を決めつけず「自分らしさ」を肯定する、ある町の小学3年生の物語。
	『バラクラバ・ボーイ』 ジェニー・ロブソン // 作 もりうち すみこ // 訳 黒須 高嶺 // 絵	バラクラバ帽をかぶった転入生のトミーがやってきた。なぜトミーは帽子をかぶってるの？ あの帽子の下には何が隠されている？ ぼくとドゥミサニの退屈な日々は、「バラクラバ・ボーイ」によって大きく変わり…。
	『たった2℃で… 地球の気温上昇がもたらす環境災害』 キム ファン // 文 チョン ジンギョン // 絵	地球の平均気温が2℃あがると、環境災害がはじまる。地球の気温上昇をとめろ！ 地球温暖化による環境の変化がもたらす生きものたちへの重大な危機を、絵で直感的にわかりやすく表現した絵本。
	『ねえねえ、なに見てる？』 ビクター・ベルモント // 絵と文 金原 瑞人 // 訳	科学者のママ、ゲーム好きのパパ、音楽家のおじさん…。同じ場にいても、見ているもの、その見え方は全く違う!? 食卓を囲む家族の異なる世界を鮮やかに描く、多様性と共感について知る絵本。

小 学 校 高 学 年	『ぼくの色、見つけた！』 志津 栄子 // 作 末山 りん // 絵	「色覚障がい」を隠して生活する信太郎。母親は試すようなことをしてくるし、症状を知らない級友から似顔絵の唇を茶色に塗ったことを馬鹿にされ、自信を失ってしまう。だが、担任の先生が信太郎に向き合ってくれて…。
	『森に帰らなかったカラス』 ジーン・ウィリス // 作 山崎 美紀 // 訳 しらこ // 画	1957年、ロンドン郊外の町。少年ミックはケガをしたカラスのひなを助けた。ひなはミックになつき、やがて地域の人気者になるが…。のちにロンドン動物園の主任飼育員となった少年の、実話にもとづく心あたたまる物語。
	『マナティーがいた夏』 エヴァン・グリフィス // 作 多賀谷 正子 // 訳	11歳の夏休み、ピーターはすべてうまくやれるはずだった。「生き物発見ノート」を完成させ、認知症のおじいちゃんの世話をし、けがをしたマナティーを守る。ところが…。変化に向き合う勇気をくれる、ひと夏の成長物語。
	『とびたて！ みんなのドラゴン』 オザワ部長 // 著	殻を破り、壁を乗り越え、自分を好きになる。人前でしゃべれない内気な女の子が出会ったのは、難病をわずらう先生。仲間たちと力を合わせ、夢の舞台に挑んだ感動の物語。
中 学 校	『わたしは食べるのが下手』 天川 栄人 // 作	給食の時間に気持ちが悪くなった葵は、保健室でクラスの問題児・咲子に「たぶん君、会食恐怖症」と言われる。実は咲子も食に関わる悩みを抱えていた。そんな2人はイケメン栄養教諭に焚きつけられ給食改革に乗り出すことに…。
	『スラムに水は流れない』 ヴァルシャ・バジャージ // 著 村上 利佳 // 訳	インドの大都会ムンバイの人口の40%が住んでいるスラム。水不足が厳しくなる頃、兄サンジャイが闇の世界の秘密を知ってしまい…。スラムに暮らす兄妹を通し、家族の絆、友情、インドの「今」を描く、青春ストーリー。
	『鳥居きみ子 家族とフィールドワークを進めた人類学者』 竹内 紘子 // 著	夫・龍蔵や家族と共に探検のようなフィールドワーク(野外調査)を進めた鳥居きみ子は、人類学の中でも、昔から伝わる生活・風習・伝説等を調べる民族学を切り開き…。これまで紹介されることがなかったきみ子の生涯を描く。
高 等 学 校	『銀河の図書室』 名取 佐和子 // 著	県立野亜高校の図書室で活動する、宮沢賢治を研究する弱小同好会「イーハトー部」。部長だった先輩が、突然消えた。高校生たちは賢治が残した言葉や詩、そして未完の傑作「銀河鉄道の夜」を紐解きながら、先輩の謎を追い…。
	『夜の日記』 ヴィーラ・ヒラナンダニ // 著 山田 文 // 訳	独立とともに、ふたつに分かれてしまった祖国。ちがう宗教を信じる者たちが互いを憎みあい、傷つけあう。少女は亡き母にあてて、揺れる心を日記につづる…。1947年8月のインドとパキスタンの分離独立をテーマにした小説。
	『「コード」のぼくが見る世界 聴こえない親のもとに生まれて』 五十嵐 大 // 著	もし、親の耳が聴こえたら—なんて、想像もつかなかった。聴こえない親を持つ聴こえる子ども=コードが、ろう者とも聴者とも違う、複雑なアイデンティティについて語る。